

絵本とグラフィック・デザイン

今井 良朗

絵本の分野ではデザインが造形面だけで見られることが多い。しかし、絵本は印刷され量産される本であり、素材、組み立て方などデザインは欠かせない手法です。人と本との直接的な対話の形をつくり出す、そのような工夫、演出がまさにデザイン的な視点です。1960年代のデザイナーによる絵本を中心に見ていきます。

1 デザインの概念を共有

デザインは造形的な美しさが評価や好みの対象になることが多い。しかし、デザインの考え方はどのような生活用品の中にも含まれています。絵本も同様であり、グラフィック・デザインについても、時代とともに変化し、今日ではコミュニケーションやデザインによって生じる〈こと〉に注目します。人との、人と情報、人と環境との対話をつくり出すための構想がデザイン行為であり、その結果形づくられた〈もの〉や〈こと〉がデザインです。

- ・デザインは問題を解決するための手法
- ・媒介作用、対話性

2 グラフィック・デザインと絵本

1930 年代以降の絵本は、デザインの影響が感じられるものが多い。イタリアの未来派、ドイツのバウハウス、オランダのデ・ステイルなどのデザイン運動、そしてアール・デコ様式のデザインとの関連などです。モダン・デザインについて考察し、方向や手法を特徴づけたのは 20 世紀に入ってからで、アメリカを中心に、都市部の発展とともに生活や文化の面で新しい様式が生まれました。

- ・新しい表現思潮、ヴィジュアル・マガジンの隆盛とイラストレーション

Millions of Cats, Wanda Gág 1928

『100 まんびきのねこ』ワンダ・ガアグ

- ・新しいタイプの編集者、デザイナー、アートディレクター、出版者の登場
- ・マーガレット・ワイズ・ブラウンとイラストレーター

The Country Noisy Book, illus. Leonard Weisgard 1940

『なつのいなかのおとのほん』絵：レナード・ワイズガード

Goodnight Moon, illus. Clement Hurd 1947

『おやすみなさい おつきさま』絵：クレメント・ハード

A Child's Good Night Book, illus. Jean Charlot 1943

『おやすみなさいのほん』絵：ジャン・シャロー

Two Little Trains, illus. Jean Charlot 1949

『せんろはつづくよ』 絵：ジャン・シャロー

3 絵本を視覚言語、コミュニケーション・デザインから考える

言語は書き言葉や話し言葉だけではない。コミュニケーション行為を媒介するもの。

1950 年代は、グラフィックからヴィジュアル・コミュニケーション・デザインに思考の傾向が変化していった時期です。ギオルギー・ケペッシュの『視覚言語』(*Language of Vision* 1944) がデザイン教育の現場に定着し、視覚理論、時空間理論を前提に視覚表現全般を新しい方法論で展開しようとしていました。

ヴィジュアル・マガジンや広告などの分野で活躍していたデザイナーが絵本に着目し、視覚によるコミュニケーションの可能性を絵本に見出そうと試みました。

- ・ コミュニケーションのための視覚言語

Five Little Monkeys, Juliet Kepes 1952

Frogs Merry, Juliet Kepes 1961

『ゆかいなかえる』ジュリエット・ケペッシュ

The Snow and the Sun, Antonio Frasconi 1961

- ・ 子どもと共有できる言語

Little Blue and Little Yellow, Leo Lionni 1959

『あおくんときいろちゃん』レオ・レオーニ

Il palloncino rosso, Iela Mari 1967

『あかいふうせん』イエラ・マリ

L'Albero, Iela Mari 1972

『木のうた』イエラ・マリ

- ・ 形や色を楽しむ、想像をふくらませる

Henri's Walk to Paris, Saul Bass 1962

『アンリくん、パリへいく』ソール・バス

Still Another Alphabet Book, Seymour Chwast and Martin Stephen Moskof [1969]

- ・ 知覚に働きかける言語

The Alphabet Tree, Leo Lionni 1968

Listen! Listen! illus. Paul Rand 1970

『きこえる！ きこえる！』アン・ランド、ポール・ランド

Nella Nebbia di Milano, Bruno Munari 1968

『きりのなかのサーカス』ブルーノ・ムナーリ